

市長 新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、夢と希望にあふれた輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

新市誕生に伴う昨年10月の市長選挙におきまして、多くの市民の皆さまから信任をいただき、市長に就任してから初めての新年を迎えました。円滑な市政運営と発展の基礎づくりを担う初代市長の重責に改めて思いをいたすとともに、職務を全うすべく日々邁進の決意をしたところです。

さて、去年は全国で1,091の市町村が合併し、307の市町村が誕生したそうです。本市の合併もこの中の一つですが、申すまでもなく、合併はそ

れ自体が目的ではなく、まちづくりの手段であることを踏まえ、今後、新しく誕生した市町村がそれぞれ英知を結集し、地域資源等を最大限に活用しつつ、全国各地でまちづくり競争を繰り広げていくわけです。

近年、地方自治を取り巻く環境は、少子高齢社会や地方分権社会への対応など、これまで経験したことのないものへと変化してまいりました。行政サービスの面では、慢性的とも言える財源不足の中で、多種多様できめ細かなサービスが求められているところであり、これからはまさに「地域の経営力」が問われる時代となりました。

私は、地域の経営力、言い換えれば、自治力を高めていくためには、行政と議会、そして市民の三者による協働のまちづくりが不可欠であり、その前提として、三者による目標(市の将来像)と情報(現状分析)の共有、そして、市民参画(計画策定への市民参加)が必要と考えます。また、行政サービスの担い手についても多様化していくことが効果的であると考えております。

新市が誕生して約4カ月、まだまだ合併時の慌ただしさが残る中、細かい点での事務事業のすり合わせなど調整すべき事案は残っておりますが、昨年はフライトに例えると、離陸に

向けた滑走ということができます。そして、いよいよ新年は離陸の年であり、「新古河市まちづくり元年」と位置付けることができます。

市政に対する皆さまの一層のご支援とご協力によりまして、地域の経営力を高め、未来に誇れる素晴らしいまちづくり「風格と希望に満ちた“いきいき古河”」を進めていきたいと考えております。

迎えました新年が、皆さまにとりまして健康で幸せに満ちた1年となりますことを心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。

古河市長 白戸 伸久





古河提灯竿もみまつり



矢来の中でもみ合う人たち。上からは提灯のろうがたくさん落ちてきますが、そんなことはお構いなし
横山町での御神燈祭を終え、会場に向かう一行
子どもの部のもみ合い。激しくぶつかり合い、提灯はボロボロに
特別出演の創原太鼓保存会

関東の奇祭

関東の奇祭として知られる「古河提灯竿もみまつり」。この祭りが12月3日、古河駅東口の光映会館前通りで盛大に開催されました。この祭りは、それぞれ趣向を凝らした提灯をつけた約20mの竹竿を20人ほどで支え、互いの提灯の火を消そうとして激しくもみ合う、荒々しい祭りです。別名「おかえり」とも呼ばれています。

真冬の寒さとなった当日、光映会館前通りに作られた矢来(木を縦横に組んだ囲い)の中で提灯をぶつけあい、熱戦を繰り広げました。以前は「こんやべーだ、こんやべーだ」と叫びながらもみあったとのこと。楽しんで羽目はずすのも今夜だけという意味の掛け声で、その言葉のとおり参加者は寒さも忘れて激しくもみあっていました。

参加したのは、一般の部が自治会や各種団体など11団体、子どもの部には子ども会など9団体。また、特別出演として古河甚句保存会、下野太鼓保存会、下山お囃子保存会、創原太鼓保存会、紫音太鼓保存会などが祭りに華を添えていました。

この伝統の祭りを見ようと訪れた人の数は約8万人。遠方からの観客も多かったようです。

祭りの由来

この祭りのルーツは、かつての古河藩領で古河に隣接する栃木県野木町にある野木神社に伝えられる神事「七郷めぐり」にあります。

「七郷めぐり」は七つの地区(小山市)にある野木神社の末社を、11月27日の「おいで」から1日ずつ、神体の神銚を奉じた一行が訪ねる神事です。一行には、裸になった各地区の若者らが篠竹に高張提灯をかざして供奉し、次の末社に向かうとき、地区の境界で双方の若者たちが行列の進

退をめぐってもみ合いを演じます。12月3日の深夜から4日にかけての「おかえり」には、七郷めぐりを終えた一行の御帰社を待ち受けて、古河に向かう日光街道には、竿に提灯を、腰には鈴をつけた人々が裸で集まりました。そして、寒さをしのぐために手に竿を取ってもみ合い、暖をとりました。これが「おかえり」と呼ばれるゆえんです。

かつては12月3日に行われていましたが、現在は12月の第1土曜日に行われています。



なくそう、交通事故

輝かしい2006年の新春を迎え、市民の皆さんはそれぞれに新しい誓いや希望を胸にしていることでしょう。今年は(も)、皆さん一人ひとりの誓いの中に「交通安全」に努めることを加えてください。

そして今年は、市民全員で「交通死亡事故0(ゼロ)の古河市」を目指しましょう。

市内交通事故(人身事故)発生状況

発生件数	負傷者数	死者数
1,065 件	1,398 人	11 人

上表は平成17年1月から11月末日までの市内の交通事故(人身事故)発生状況です。

交通事故をわざと起こす人、交通事故にわざと遭う人はとても数

が少ないはずですが、誰もが交通事故の当事者になることを望んではいないでしょう。でも、交通事故は突然起きてしまいます。被害者となる人も加害者となる人も、それぞれに大きな悲しみや苦しみを背負い、また周りの人たちにも同じような悲しみや苦しみを与えてしまいます。そうならないためにも、市民一人ひとりが毎日、交通安全を意識することが重要です。

ドライバーの皆さんへ

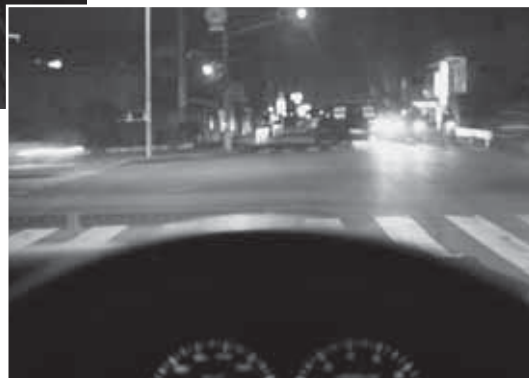
- ・歩行者や自転車に十分目配りをしましょう。
- ・夕暮れ時は早めの点灯をしましょう。
- ・法定速度を守りましょう。

歩行者・自転車の皆さんへ

- ・無理な道路横断はやめましょう。
- ・常に「自動車があるかも」という意識を持ちましょう。
- ・夕方から夜間にかけて、歩行者は反射材の着用、自転車はライト点灯を心がけましょう。



運転には細心の注意を。夜は運転席からの視界が狭くなります。昼間と同じ感覚での運転はとても危険です



古河地区交通安全大会

11月19日、古河地区交通安全大会が生涯学習センター総和(とねミドリ館)で開催されました。この大会では、多年にわたり交通安全のため尽力した交通安全功労団体(者)や永年無事故優良運転者など、各分野で交通安全に寄与、功労のあった171人・40団体が表彰されました。また、古河警察署交通課長が交通事故の現況について説明をしました。

大会の最後には、人命尊重の理念に基づき、全員参加により悲惨な交通事故を追放するため大会宣言を採択しました。

大会宣言

1. 私たちは、「酒を飲んだら運転しない」「運転する人に酒をすすめない」を合言葉に飲酒運転の根絶に努めます。
1. 私たちは、子どもや高齢者を交通事故から守ります。
1. 私たちは、学校・家庭・職場から交通事故を追放します。
1. 私たちは、シートベルト・チャイルドシート・ヘルメットを正しく着用し、安全運転に努めます。
1. 私たちは、自らの命を自ら守るため交通ルールの遵守に努めます。
1. 私たちは、暴走行為や駐車違反などの迷惑行為を追放し、よりよい交通環境の実現に努めます。



交通事故追放を誓った大会



表彰を受けてさらに安全運転を



一人ひとりの意識が大切

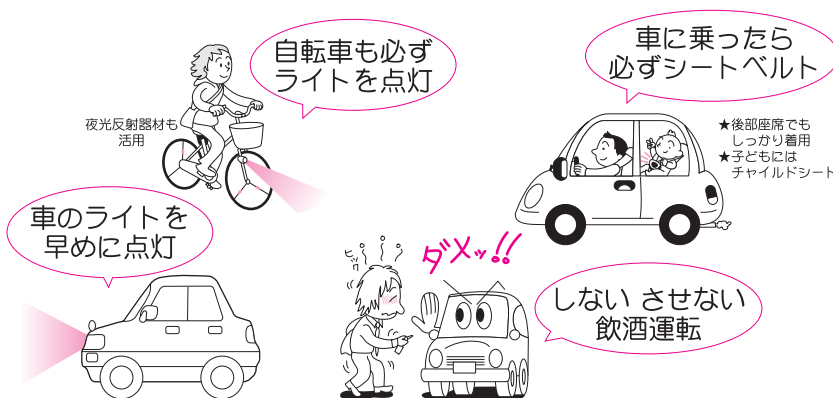
交通安全啓発活動

市では、古河警察署、交通安全協会、交通安全母の会などの交通安全関係団体と協力して、さまざまな交通安全啓発活動を実施しています。

12月1日の早朝には、市内3カ所(国道354号線鴻巣交差点、十間道路今泉交差点、国道125号線諸川交差点)で、年末の交通事

故防止キャンペーンを実施し、交通安全思想の普及・浸透に努めました。

また、交通安全指導員による高齢者交通安全教室や幼児交通安全教室を随時開催し、交通ルール遵守の大切さなど交通安全意識の向上の啓発を図っています。



高齢者交通安全教室



幼児たちにもわかりやすく

「認知症攻略法」講演会

12月3日、総和福祉センター「健康の駅」において、「認知症攻略法」講演会が開催されました。講師は六角僚子氏(痴呆ケア研究所代表理事・茨城キリスト教大学看護学部助教授)。市民132人が参加し、認知症への理解を深めました。



認知症は決して他人事ではありません

認知症とは

認知症とはいったん正常に発達した知能が、日常生活を営めない程度にまで持続的に衰退した状態の総称です。65歳以上の人々の14人に1人がなると言われています。代表的な認知症は血管性認知症とアルツハイマー病があります。代表的な症状として、物忘れがあります。認知症の人の物忘れには右表のように3つの大きな特徴があります。

認知症と老化による物忘れの違い

	認知症	健康な高齢者
物忘れの仕方	体験した出来事をすっぱり忘れる	体験した一部を忘れる
病識	自覚がない	自覚がある
経過	進行する	進行しない

認知症の早期発見

認知症は、早期発見が大切です。物忘れが代表的な初期症状ですが、その他に物盗られ妄想や嫉妬妄想なども兆候であると言われています。

右のような変化が半年くらい続くようになったら受診をおすすめします。

そして、認知症と診断されたら、本人と家族でその事実を受け入れましょう。家族としては、認知症と診断されても人としての尊厳を保つことができるように、かかわりを持つことが重要です。本人が言ったことを否定することが、最も悪化につながります。

認知症始まりの時の変化

- ・最近同じことを何回も言うし、聞いてくる。
- ・話が少し複雑になると理解できなくなる。
- ・同時に2つ言っても1つしか伝わらない。
- ・話の中味が何を言いたいのかわからない。
- ・身の回りに無頓着になってきた。
- ・自分から動こうとしなくなってきた。
- ・計画を立てることが不得意になってきた。

認知症の予防

認知症の予防は認知症を理解し、認知症になる時期をできるだけ遅くすることです。

認知症は社会的つながりを持っている人のほうがなりにくいといわれています。そのため社会的つながりを持つような活動を日常生活に取り入れることが予防の第1歩となります。

例えば料理教室・パソコン教室・園芸教室・ミニ

コミ誌作成・運動教室(ウォーキング・筋力トレーニング・太極拳)など、多くの人とかかわる活動をすることが良いでしょう。

ただし、参加者が面白いと思って参加できるプログラムでないと長続きしません。また、参加者が認知症予防活動であることを認識して参加することが重要です。

一人で背負わないで認知症の介護を.....

「みんないるから、見ているから、地域があるから、認知症を一人で背負わないで。誰もが、いつ認知症になるか分かりません。地域みんなが自分自身を大切に、きらきら生きることが大切です」.....講演会より

三和健康まつり

12月3日、三和健康ふれあいスポーツセンターで「第17回三和健康まつり」が開催されました。

早朝行われた「楽しく歩いて健康づくりの集い」では、約200人の参加者が、ふるさとの森までの往復コースを楽しく歩きました。また会場では、献血や体力測定、健康相談などが行われました。

そして、まつりの最後には歌手でイタリア家庭料理研究家のロザンナさんによる「スローライフを考

える……現代社会を健康に生きるために……」と題した講演会が開かれました。「ヒデとロザンナ」としてたくさんのヒット曲を世に送り出したロザンナさん。妻・母・女性として奮闘した、まさに「愛の奇跡」といえるこれまでの人生の話や、もっと食事に手を掛けてほしいという話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。



▲朝のウォーキング風景



▲健康維持には、定期的なチェックが大切



▲講演するロザンナさん

健やかに育てるために「父親教室」



◀初めての沐浴体験。なかなか、むずかしいな

12月4日、総和福祉センター「健康の駅」で「父親教室」が開催され、もうすぐパパ・ママになる23組の夫婦が参加しました。

最初に「生命創造」のビデオを見て、その後、茨城県臨床心理士協会所属の渡辺彰一氏の「子育て」についてのお話がありました。「大人は完璧な手本になる必要はないこと」「子どもの話に耳を傾けること」など、自分の子育て体験を交えながらの話に参加者は真剣に聞き入っていました。



▲子どもと密接にかかわることが重要です。そのためには、親として努力が必要です

そして、最後に沐浴の練習。保健師の指導を受けながら、体重3kgの赤ちゃんの人形を使って、一生懸命に練習していました。

参加者からは、「初めてのことなので完璧を求めてしまいがちですが、お話を聞いて心にゆとりができました」「重さ3kgの赤ちゃんの人形がかなり重く感じました。妻1人では大変な作業であることを実感しました。早くわが子を沐浴させてあげたいと思いました」などの声が聞かれました。

第5回危険業務従事者叙勲

瑞宝単光章

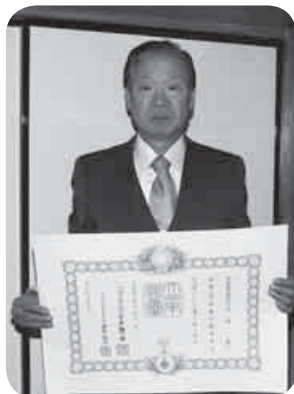
瑞宝章は国家または公共に対し功労のある人で公務等に長年にわたり従事し、成績をあげた人に授与されます。市内では永井孝美さん(諸川・防衛功労)、福留克己さん(磯部・防衛功労)、吉田真さん(東山田・消防功労)が受章されました。



永井 孝美さん



福留 克己さん



吉田 真さん

厚生労働大臣表彰

第55回障害者自立更生等厚生労働大臣表彰式において、古河視覚障害者協会会長で茨城県視覚障害者協会副会長の諏訪光英さん(旭町一丁目)が厚生労働大臣表彰を受けました。自らの障害を乗り越え、多年にわたり障害者の福祉事業に率先して尽力された功績が極めて顕著であることが認められたことによります。



諏訪 光英さん

全国大会で活躍

居合道

10月15日、千葉ポートアリーナ(千葉市)で行われた第40回全日本居合道大会六段の部で、関展秀さん(諸川)が第二位になりました。



関 展秀さん

卓球

11月12日、江戸川区スポーツセンター(東京都)で行われた第54回全国青年大会卓球女子個人の部で関口欽子さん(関戸)が優勝しました。



関口 欽子さん

県文化芸術功労者

11月23日、県文化芸術功労者として、個人の部で総和町文化協会会長の吉田正之さん(大堤)が、また、団体の部で地域文化振興のため活動をしている古河吹奏楽団(大澤行雄団長)が表彰されました。



▲老人ホームの文化祭で演奏する古河吹奏楽団の皆さん

県大会で活躍

サッカー

11月20日、笠松運動公園(那珂市)で行われた第32回学年別少年サッカー大会高学年の部で、古河サッカー少年団が優勝しました。



古河サッカー少年団の皆さん

各種コンクール

第33回花と緑の 環境美化コンクール (茨城県)

- 県知事賞 (団体・職場の部)
光商工株式会社茨城工場
- 県知事賞 (学校の部)
古河第六小学校
- 茨城新聞社長賞 (学校の部)
八俣小学校
- 県花き園芸協会会長賞
(フラワーロードの部)
上大野老人クラブ
- 県造園建設業協会会長賞
(学校の部)
総和南中学校



光商工株式会社茨城工場



古河第六小学校

心の輪を広げる体験作文 (茨城県)

- 最優秀賞 (小学生部門)
坂口健太くん
(古河第一小学校4年)

愛鳥週間ポスター原画 コンクール (茨城県)

- 特選 (小学校の部)
下條聖佳さん
(古河第二小学校3年)
- 特選 (中学校の部)
小針希実子さん
(古河第二中学校2年)

人権啓発ポスター コンクール (茨城県)

- 最優秀賞(小学校低学年部門)
北島功裕くん
(駒込小学校1年)

お詫びと訂正

広報古河12月号6ページ秋の褒章・叙勲の中で、松浦清吉様の叙勲を「旭日単光章」とご紹介しましたが、正しくは「瑞宝小授章」です。謹んでお詫び申し上げ、訂正させていただきます。

広報古河12月号7ページ茨城県表彰の中で、特別功労賞・粕谷榮一様とご紹介した写真が、間違っておりまして。謹んでお詫び申し上げ、訂正させていただきます。

渡良瀬の自然と環境を守ろう

11月23日、「第6回渡良瀬の自然と環境を守る市民大行進」が行われました。この催しは足尾鉍毒事件で有名な田中正造翁の業績を顕彰し、自然環境を守っていくことの必要性を多くの市民に呼びかけるものです。参加した人は、鉍毒事件の当時にかかわりのあった人物に扮し、古河駅西口から古河第一小学校まで大行進。田中正造、石川啄木、内村鑑三、幸徳秋水など、さまざまな仮装が見られました。この行進には古河第一小学校、古河第二小学校の鼓笛隊も参加。先頭で元気な演奏を披露しました。

地球温暖化や環境保全が課題となっている現在、市民が一致団結して環境を守ることが大切です。



▲総勢 400 人の大行進

秋空に響いた火縄銃の音



▲午前と午後の計 2 回行われました

古河歴史博物館で9月から11月にかけて開催された、新古河市誕生記念「新・古河風土記」展。その企画の一環として、最終日の11月23日に博物館濠まわりで火縄銃演武が実施されました。

演武者は川越藩火縄銃鉄砲隊獅子の会の皆さん。勇壮な鎧姿で濠まわりに並びました。銃を構え、指揮者の「放て」の合図で発射。一斉に撃ったり、順番に撃ったりして、さまざまな撃ち方を披露していました。

集まった観客は、火縄銃の大きな音を聞きながら、砲術が盛んだった古河藩の時代をしのんでいた様子でした。

吹奏楽フェスティバル

11月27日、古河市公会堂で古河地区吹奏楽集団を主体とした吹奏楽の合同バンドによる「第25回吹奏楽フェスティバル」が開催されました。このフェスティバルは、市民文化祭参加として毎年行っているもので、今回も会場にはたくさんの吹奏楽ファンが集まりました。

第1部では「音楽祭のプレリュード(A・リード作曲)」や



◀ 愉快的な演出にステージと客席が一体となりました

「呪文と踊り(J・Bチャンス作曲)」などを演奏し、会場は大きな拍手に包まれました。そして、第2部では演奏者が看護師やチャリダーなどの扮装をして登場。歌謡曲メドレーの「ど演歌えきす

ぶれす」や「時代劇絵巻」などによる明るく楽しいステージを繰り広げました。

またアンコールでは、「ミス・サイゴン」を演奏し、聴衆の感動を誘っていました。

総ぐるみ清掃 (古河地区&総和地区)

11月20日に総和地区、12月11日に古河地区でそれぞれ市民総ぐるみ清掃が実施されました。

「きれいな街、きれいな通り」は市民共通の願い。早朝から行政区や自治会ごとに一致協力して清掃に取り組んでいました。



◀カーブミラーもピカピカに
(総和地区)

▶落ち葉もきれいに、四季の
路(古河地区)



元ラグビー日本代表 選手が直接指導

12月13日、文部科学省と財団法人日本体育協会が行うスポーツ選手ふれあい指導事業が八俣小学校で開かれ、6年生の児童93人が元ラグビー日本代表で「炎のタックルマン」と呼ばれた石塚武生さんからラグビーの基本を学びました。

有名選手から直接教えてもらえるという夢のような体験に、子どもたちは大喜び。パスやタックル、狭いスペースを突破する走り方などを教えてもらい、グラウンドを元気いっぱい走り回って、ラグビーを楽しみました。



▲楕円形のラグビーボール。どこに転がるか分かりません

記念モニュメントは 風力発電装置

11月26日、中央小学校創立20周年記念祭が開催され、記念モニュメントとして「ハイブリッド型風力発電装置」が設置されました。高さ約7mで、先端部分に4枚の羽根車、中央部分に太陽電池パネル。風速2m以上で発電を開始し、学校へ電気を供給します。

同校PTAが「子どもたちへの環境教育に役立てば」との思いで発案したものです。今後、このモニュメントを通して、児童たちは地球の持つエネルギーにいつその関心を持つことでしょう。

▶地球に優しい
発電装置、理科教育に
も役立ちます



我が後輩たちへ

12月8日、古河第一中学校で、全校総合「生き方を学ぶ」講演会が、生徒や保護者約900人を集めて開催されました。

講師は同校OBで俳優の渡辺徹さん(文学座所属)。中学・高校時代の思い出や生きる上においての自らの信念など、かわいい後輩たちへ、真剣にそして楽しくお話しされていました。「どんな仕事でも1人でできるものはない」「一

生懸命がんばれば、必ず助けてくれる人が現れる」「夢を持ち続けることが大切なこと」などトップスターの説得力のあるお話は、後輩たちの心にいつまでも残ることでしょう。また、質問コーナーでは後輩たちと直接のやり取りも。「好きな言葉は何ですか？」の質問に「ありがとうという言葉が大好きです」と笑顔いっぱいに答えていました。

▶「ただいま！先輩お帰りなさい！」





関根 村夫さん
(諸川・78歳)

- 弓道を始めたきっかけは

わりと遅かったんですよ。本格的に始めたのは昭和47年、三和中央公民館で指導を受けました。的は巻きわらでしたね。

その後もっと本格的にやりたいと思い、下館市(現在の筑西市)にできたばかりの弓道場に通い始めました。

根が凝り性なもので昭和52年に五段を取るまでは、年間200日以上通い続けましたね。主に夜間でしたが。

- 弓道の魅力は

弓道は、弓で矢を射て、的的中させる競技。でも、ただ的中させるだけの競技ではない。弓道の最高目標は「真・善・美」の具現にあるといわれています。

「真」とは偽りのない真実を求める、「善」とは礼や平常心といった、いわば倫理性の追求かな。そして「美」は、「真なるもの」「善なるもの」は美しいということで、それを具体的に表現しているのが弓道。それが人を引き付けるんじゃないかな。

もちろん最初は、的に当たる楽しさというのもありますけど。

相手は28m先の動かぬ的と、自分の心という弓道。その弓道の称号で最高位の「範士」として、全国的に活躍する関根村夫さんにお話を伺いました。

ブックレビュー -Book Review-

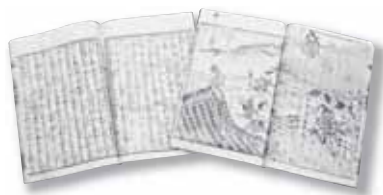
曲亭馬琴 著

『南総里見八犬伝』

写真をご覧ください。これはおよそ200年前に刊行され、大人気を博した小説の初版本です。文化11年(1814年)から天保13年(1842年)までの28年間、21回にわたり刊行され、全九輯九十八巻百六冊、原本を積み上げると大人の背丈ほどにもなる一大長篇。その名は『南総里見八犬伝』(以下、『八犬伝』と略す)。

曲亭馬琴が著した『八犬伝』といえば、「仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌」の八つの霊玉を有する八人の若武者が活躍する、近世戯作文学の傑作としてその名はあまりにも有名です。現代でも岩波書店ほか多くの出版社から刊行されて

おり、また、歌舞伎やテレビの人形劇、映画などの題材としても取り上げられているので、ご存じの方も多いと思います。そういえば、今年の正月ドラマでも放送されたので、御覧になった方もいらっしゃるのでは？



ところで『八犬伝』は戦国時代初期、争乱絶え間ない関八州(関東地方)を舞台に、安房(千葉県南部)の領主・里見家に仕える八犬士の活躍を描いた英雄譚ですが、作中には古河公方・足利成氏をはじめ「古河(作中表記は許我)」の文字が随所に登場します。

とりわけ犬塚信乃・犬飼現八の両犬士が、古河城芳流閣の楼上で戦う場面は、口調のよさと比喻の巧みさが際だつ、『八犬伝』を代表する名文と言われ、前半の大きなヤマ場の一つとして知られています。原文をちょっと引用してみましょう。

昔は六月廿一日、きのふもけふも乾蒸の、燄熱をわたる敷瓦は、凸凹隙なく、波濤に似て下には大河滔々たる、こゝ生死の海に朝る、潮洄は名に負ふ坂東太郎。水際の小船楫を絶て、進退既に谷りし…

ちょうど今年は戌年。読初めに犬にちなんだ古典の大作を手にとってみてはいかがでしょうか。なお、写真の『八犬伝』初版本は文学館の常設展示でご覧いただけます。

(古河文学館 秋澤正之)

- 現在の活動は

全日本弓道連盟審査委員、中央講師、競技会審判などで年間約30日は県外へ、そのほか県内の各種行事、地域弓道の指導などで、合わせて年100日くらいは出かけます。当然ながら自分自身の修練も必要なので、なかなか気が抜けないです。

- これからの抱負を聞かせてください

弓道は生涯を通してできるし、精神面での鍛錬に最適で、物事に動じない、いわゆる「不動心」を養えます。そして、ほかの武道と同様に礼を重んじます。そういう意味ではぜひ若いうちから始めて

もらいたいですね。

少子化の影響もあってか、弓道人口はあまり増えていないんですよ。そのためにも地域のたくさんの人が弓道に親しめるよう、何とか市内に弓道場が欲しいですね。

まもなく、「国際弓道連盟」が発足する予定です。日本古来の武道としての弓道を継続し、世界中に普及振興させていきたいです。

- ますますのご活躍を期待いたします。本日は貴重なお話をありがとうございました。



「真・善・美」の一致こそ弓道の醍醐味

弓道は「求道」という関根さん。穏やかな話しぶりや姿勢の良さが印象的でした。「実は、弓を最初に手にしたのは、温泉旅行へ行ったときの弓の的当て。あの時は当たらずにくやしかったな」というエピソードも、そっと聞かせてくれました。

図書館

おすすめの図書

一般書

・ひょうたん

宇江佐 真理 著

天の神さんは、あたしたちを試したのかもしれない……。のんきな亭主と勝気な女房。二人が営む小道具屋を舞台に情緒豊かに描かれる、江戸に息づく厚い人情と心意気。表題作ほか5編を収録。『小説宝石』掲載を単行本化。

出版社 光文社

分類 F(913.6)ウ

・なつかしく謎めいて

アーシュラ・K.ル=グウィン 著

谷垣 暁美 訳

翼人間、不死の人、眠らない子ども……。次元間移動で訪れた不思議な場所で出会った不思議な人々たち。まったく違っているようで

似ている人々は、謎めいているけれど、どこか懐かしい……。深い思索とユーモアに満ちた新ガリバー旅行記。

出版社 河出書房新社

分類 933 ル

児童書

・ファーガス・クレインと空飛ぶ鉄の馬

ポール・スチュワート 作

クリス・リデル 絵

それは「空飛ぶ箱」から始まった。ファーガスは、学校船ベティ・ジーン号のみんなを守るのか？ 空飛ぶ馬の背に乗って、きみような冒険に出発だ！ 「崖の国物語」のステュワート&リデルが贈る楽しい冒険物語。[スマーティーズ賞]

出版社 ポプラ社

分類 93



・おもちぶとん

わたなべ ゆういち 作

ぶたのお城では、お正月のしたくでおおいそがし。おもちが大好きなぶたの殿さまの命令で、家来たちはがんばって大きなおもちをつくことにしました。そして、ぶとんのようなおもちができました……。夢がふくらむゆかいな絵本。

出版社 あかね書房

分類記号 E

(古河図書館)



古河の文化財

名崎と八俣の送信所

東山田には、広い敷地内に多くの鉄塔が林立していて、一種独特な雰囲気を感じさせる場所があります。八俣送信所と呼ばれ、全世界に向けてラジオ放送(NHKラジオ日本)を送信している施設です。以前はもう一カ所名崎送信所と呼称された施設がありましたが、こちらの方は昭和49年に廃所となってしまいました。

名崎送信所は、日本初の国際電話と海外放送施設として昭和9年に開設されました。その目的は「政府の用に供すること」でしたから、国策として建設されたことがわかりますが、それは科学技術の進歩などにもなう当時の国際情勢に応じたものでした。一方、八俣送信所は海外放送専用局として、昭和16年に開局しました。こちらも名崎と同様国策としての建設なのですが、なにぶん戦時色の濃いものだったようです。

名崎と八俣という近接地域に似たような施設が建設されたのは、その大きな要因の一つとして方位・距離など送信上の立地条件の良さがあったようです。こうして建設された両送信所は、戦中・戦後の混乱期を乗り越えて存続してきました。特に八俣送信所は日本で唯一の国際放送の送信所として現在でも操業を続けており、通信業務の歩みを今日に伝える貴重な近代化遺産といえるでしょう。



鉄塔が林立する八俣送信所

コミュニティ通信

みんなが手をつないで平和なまちに

昔、集落の中にあつた3本の老杉から名づけられたという三杉町自治会。580世帯が加入し、さまざまな活動を行っています。

特に力を入れているのが美化運動。具体的には有価物の回収と、毎月行っている清掃運動です。有価物の回収は、年6回実施。トラック7~8台で役員など30人ほどが自治会全域を回ります。会長の八木稔さんにお話を伺うと「有価物の回収は、最初はスポーツ大会の資金を作るために始めました。そのため、この活動は体育部が中心となって行っています。回収で得た収入はさまざまな行事の経費に充てていません。県から褒賞を受けたこともありますよ」とのこと。「清掃運動に力を入れているのは、



ごみの分別も啓発している護美祭り

三杉町自治会

ごみのポイ捨てや粗大ごみの不法投棄を防ぐためです。きれいな場所にはごみは捨てられませんから」と話してくれました。

また、自治会内の人々の親睦を深めることも重要な活動の一つ。春に、たこ公園で開催する護美祭りがそれです。内容は、昼間が子どもで、パン食い競争やなわとびなどのゲーム、夜が大人の部でカラオケや抽選会など。1,000食分の豚汁と焼きそばも作ります。これは災害時に大量の食料を用意する防災訓練も兼ねているとのことです。

八木会長は「大切なのは人の輪です。人間が手をつなぎ、輪を作ることによって地域が平和になると思います」と話していました。





パークライフ

冬も楽しいネーブルパーク

四季折々の表情を見せるネーブルパーク。今回はネーブルパークの冬の楽しみ方を紹介します。

最初に紹介するのは工芸館。その名の通り工芸を楽しんでいただく施設で、木工室と陶芸室があります。陶芸室には2つのコースがあり、気軽に楽しみたいなら素焼きに絵付けをする「素焼きコース」、じっくり作品を作りたいなら粘土から作り上げる「本焼きコース」と、自分にあわせたスタイルで陶芸を体験することができます。世界に一つだけの作品づくりを工芸館でチャレンジしてみたいかがですか。



ポニーさん、やさしく私を運んでね

次に紹介するのはポニー牧場。牧場には現在4頭のポニーがいて、来園者に乗馬を楽しんでいただいています。スタッフが引く馬に

乗る「引き馬」や、乗馬を基礎から学ぶ「体験乗馬」など、いろいろな形で馬とのふれあいをもてる牧場です。ネーブルパークに来園の際にはぜひポニー牧場にもお立ち寄りください。

いよいよ冬本番。冬のネーブルパークにもこんな楽しみ方があります。

きりりとした澄んだ空気の中で、どうぞ新しい発見をしてみてください。

【問】ネーブルパーク 92 - 7300

趣味ゆうゆう

重ねた色から生まれる深い色彩が魅力

アトリエ^{きんよう}金蓉



描き始める前にはぎやかですが、筆を持つと真剣

三和公民館の「油絵講座」から発展して2年前に発足した「アトリエ金蓉」。講師の岸田喜代子先生、石塚よし先生の指導により、毎月2回第2・4金曜日に三和公民館の大ホールで活動しています。会員は現在16人。40代から70代の幅広い年代の人たちで構成されています。

油絵は、水彩画よりもたくさんの道具を

使って描きます。筆やペインティングナイフで描いたり、布や指でぼかしたり、その技法はさまざま。「何度も重ねて描くことで、深い色彩や重厚感を表現できるところがおもしろいですね」と会員の皆さんは油絵の魅力を話していました。

「アトリエ金蓉」は茨城県ふるさと美術展や高齢者はつらつ美術展の展覧会に出展したり、古河市民文化祭(三和会場)や下総美術展のイベントに出展したりしています。今年度は、第19回茨城県ふるさと美術展で全員の作品が入選したので、バスを借りてみんなで水戸の県民文化センターへ鑑賞に行ったということです。

また、昨年12月には、三和支所の多目的ホールに「アトリエ金蓉」の作品36点が展示されました。色鮮やかで個性豊かな作品は、訪れた人たちの目を楽しませてくれました。





古河市公会堂。昭和35年の開館以来、さまざまな文化活動の拠点として市民に愛されて
.....

昭和50年、20歳で結婚するまで古河市に住んでいました。そして、ここ桑名市には、夫の仕事の関係で昭和57年から住み始めました。現在、介護の仕事をしていますが、人生経験豊かなお年寄りとの交流は、仕事であるという事を忘れてしまうぐらい楽しく、今の私は“仕事大好き人間”になっています。

桑名市で有名なものといえば、^{きゅうか}九華公園と石取祭でしょうか。桑名城跡の九華公園は、四季をとおして市民の憩いの場になっていて、特に桜の季節にはライトアップもあり、大勢の人でにぎわいます。

「日本一やかましい」といわれる石取祭は、毎年8月の第一土曜日と日曜日に、かねや太鼓を打ち鳴らしながら、町内ごとに作られた豪華な祭車で町内を練り歩くという本当にやかましいお祭り。かねや太鼓のリズムは五つ拍子、七つ拍子などで非常に難しく、私にはまねできないのですが、生粋の桑名っ子はみんな打つことができるそうです。

古河市の思い出といえば何といても古河吹奏楽団。中学校で始めたクラリネットを続けたかったため、古河二高進学と同時に古河吹奏楽団に入団しました(当時、古河二高に吹奏楽部がなかったんです)。長野県や福島県での合宿や、夜遅くまで練習をして食べたコロケパンの味など、懐かしく思い出されます。そして定期演奏会を行った公会堂は、たくさんの音楽や友と触れ合った、私にとって大切な場所の一つです。

一昨年、30年ぶりに古河吹奏楽団の定期演奏会を聴きに行くことができました。当時の仲間が何人も出演していて感激するとともに、私の青春の1ページが確かにここにあると感じました。でも、会場は公会堂ではなく野木町のエニスホール.....。古河市も合併して大きくなったので、みんなが集えて楽しめ、私のようにたくさんの思い出がつかれるような立派なコンサートホールがあるといいなと心から思っています。



三重県在住
吉田(旧姓：秋谷)敏子さん



ソフトテニスをやっている一番良かったと思うことは、たくさんの仲間ができたこと。とにかく友達は増えましたね。ソフトテニスって硬式テニスに比べると、地味で見た目もつまらないかもしれませんが、ラケットもボールも軽いから、小さい子からお年寄りまで、わりと簡単にできますよ。生涯スポーツとしては最高じゃないですか？

ソフトテニスに夢中！

白畑 薫さん(東山田)

中学からソフトテニスを始め、高校ではインターハイにも出場しました。卒業後も実業団に入って続けていたので、青春時代はまさに「テニス一色」でした。結婚・出産・子育てで少し休みましたけど、子育て終了後は復帰し、いろいろな大会に出させてもらっています。最近では平成16年の「さいたま国体」にも茨城県代表で出場しました。

私もソフトテニスはずっと続けたい。そして、どんどん普及させていきたいと思っています。今度、市で、近所の三和農村環境改善センターにすばらしいオムニコート(砂入り人口芝コート)を造ってもらえるんですよね。とても楽しみにしています。

皆さん、そこで私と一緒にプレーしませんか？

皆さん、そこで私と一緒にプレーしませんか？

健康情報局

上手なお酒の飲み方

年末年始は、お酒を飲む機会が多くなる季節。皆さん、飲みすぎではありませんか？

お酒は「百薬の長」といわれるように、適量であればストレス解消やリラックス効果をもたらしますが、飲み過ぎると肥満やアルコール性肝炎、肝硬変などを招きます。

肝臓が余裕をもってアルコールを解毒できる日本人の平均的なアルコールの量は、200キロカロリー。これをお酒に換算すると、ビール中瓶1本か日本酒一合程度になります。肝臓は意外に弱いものですね。皆さん無理をさせていませんか？

アルコール健康医学協会が作成した「適正飲酒10か条」をご紹介します。

介します。お酒は上手に飲み、健康な毎日を過ごしましょう。

適正飲酒10か条

- 1 笑いながら共に、楽しく飲もう
- 2 自分のペースでゆっくりと
- 3 食べながら飲む習慣を
- 4 自分の適量にとどめよう
- 5 週に二日は「休肝日」を
- 6 人に酒の無理強いをしない
- 7 薬と一緒に飲まない
- 8 強いアルコール飲料は薄めて
- 9 遅くても夜12時で切り上げよう
- 10 肝臓などの定期検査を

(健康推進課)

編集室から



新年明けましておめでとうございます。新「古河市」が誕生して4カ月、「広報古河」も平成18年1月号を発行することができました。ひとえに市民の皆さんのご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。合併の慌ただしさの中、まだまだ未熟で不十分な「広報古河」ではございますが、市民の皆さんのご指導により育てていただければ幸いです。

本年もよろしくお願いたします。

編集室一同

人口と世帯

(11月末日現在 住民基本台帳から)

総人口	146,927人 (-31)
男	73,669人
女	73,258人
世帯数	51,515世帯(+13)

()内は前月比

今月の料理

小松菜の混ぜご飯



エネルギー = 261kcal
たんぱく質 = 5.7g
塩分 = 1.0g

材料(5人分)

米2合、だし用昆布適量、小松菜1束、にんじん1/2本、油小さじ2、A(しょうゆ大さじ1、塩少々、酒大さじ1)、卵1個、油小さじ1

作り方

米を同量の水で、昆布と一緒に炊く。

小松菜はゆでてから1cmくらいにざく切りし、にんじんは細かく千切りにし、下ゆでしておく。油をひいたフライパンで小松菜とにんじんを軽く炒め、Aで味付けをする。

炊き上がったご飯に混ぜ合わせる。

卵を割りほぐして、油をひいたフライパンでいり卵にし、ご飯の上にふりかける。

(食生活改善推進会)



アイドル登場



兄弟仲良く助け合ってね

石川智也くん(4歳)・雅也くん(2歳)・淳也くん(3カ月) 関戸

わが家のわんぱく3人兄弟です。智也はおしゃべり、雅也は口数は少ないのですが、いたずらの毎日で大小のコブやスリ傷などけがの連続



で、諸川のおじいちゃんおばあちゃん、松並のひいおばあちゃんたちをハラハラさせています。今年は淳也も1歳になり、お兄ちゃんたちのケンカに仲間入り。今よりもっとにぎやかになると思います。

わが家のかわいい3人のやんちゃ坊主たちは、パパとママの大事な宝物。そして4人のジイジとバアバの宝物です。これから先いろんなことがあると思いますが、まずは病気をしない、けがをしない、そして素直な心優しい男の子に育ててほしい。大人になってからも、兄弟仲良く助け合ってほしいと願っています。

(父:正吉さん・母:陽子さん)

博物館 ニュース

雪の殿さま 土井利位

氷点下10°。

およそ200年前の「三都」・京都江戸・大坂は、冬季にもなると、そのような気象環境におかれていました。降雪のめずらしい近年の東京と異なり、江戸っ子たちは、しばしば降る雪に喜憂したことで

しょう。他方で、こうした気象条件が冷害を生み、不作から連鎖的に起きる飢饉に、人々が苦しめられていたことはよく知られています。

さて、この時代、寒冷の三都に降り積む雪を、熱心に観察している殿さまがおりました。その実験はおよそ

20年にわたって続けられます。低温科学実験室はもちろん、写真機や防寒に便利な用具ですら存在しないこの時代、雪の結晶観察に打ち込むかの殿さまは、私たちの想起しえない困難に行き当たり、幾度も幾度も試行錯誤を繰り返したでしょう。



やがて、その成果は、日本で最初の、雪の自然科学書として結実しました。

『雪華図説』と名付けられたその著作は、今日、続編とあわせて日本における雪氷学のさきがけと高く評されています。自然科学の視座から生まれた同書は、あまつさえ文化史上に大きな副産物を贈ってくれたので

した。「雪華」という意匠、すなわち、現在まで不断につづく流行のデザインを誕生せしめた、という功績を見逃すことはできません。

ところで、肝要なことを忘れてまいか、という叱声が聞かれるようない。

そうですね。殿さまの名前は、土井利位(1789~1848)。江戸後期の古河城主にして、幕府老中となった人物。さらに詳しくかという向きには、歴史博物館へぜひにもご来館ください。「雪の殿さま 土井利位」なる企画展を開催中なのです。

古河歴史博物館学芸員 永用俊彦

平成18年1月1日発行

発行所/〒30610291 茨城県古河市下大野2248
編集/古河市広報広聴課

ホームページ/ <http://www.city.fananki.kogori.jp/>

